

第2回 第2次清瀬市教育総合計画マスタープラン検討委員会会議録(要旨)

日 時 平成 28 年 1 月 22 日(金) 午後 2 時～4 時

場 所 清瀬市役所第 2 委員会室

出席者 委員 16 名(中田委員長 村田副委員長 島澤委員 佐藤委員 福島委員
齊藤(し)委員 菊地委員 矢澤委員 和田委員 林委員 広瀬委員
西澤委員 中西委員 内野委員 小苺米委員 齊藤(隆)委員
土田委員)
その他 7 名(教育部長 教育部参事 生涯学習スポーツ課長 図書館長
郷土博物館長 統括指導主事)

会議次第

1 開会

2 議題

- (1) 現行マスタープランの検証について
- (2) 次期マスタープランの理念について
- (3) 柱建ての検討について

3 閉会

会議(要旨)

1 開会

2 議題

(1) 現行マスタープランの検証について

(委員長)

新たな計画の検討の前段階として、現行計画を総括してから実行計画の検討に入る。

(教育総務課長)

総合計画マスタープラン重点事業検証シートについて、5本の柱と42の事業で統一政策に取り組んでいる重点について説明したもの。重点事業名・概要・具体的施策と目標値が記入されている。目標値については平成 18 年度策定、平成 22 年度見直し、現在平成 27 年度の目標に向かって各課取り組んでいる。昨年から本会議の下部組織である分科会を立ち上げ現行プランの見直しを行った。目標の達成度については、事務局の評価だが今後も行っていく。

(委員長)

各委員より現行のマスタープランについて意見をいただく。

(委員)

検証シートは非常に見やすく理解しやすい。目標の達成状況と方向性がでており、今後の重要な参考資料としたい。

(委員)

重点事業検証シートでは 42 の事業が評価されているが、各部門によって事業数が違っている。指導課については、42 事業のうち 22 事業に携わっているが、人員の配置は十分にあるのか。評価にはそのような部分が評価には出ていない。そこはどうなっているのか。

(委員長)

事業数に対してそれを柔軟に実施できるスタッフを整えているか。その辺のアンバランスが評価には出てこないという重要な意見。

(教育総務課長)

42 の事業があるが、例えば施設管理も 1 つの事業になっているが、光熱水費の予算管理等の事務的な部分にもスタッフを入れているということもあるので、単に事業数と職員数だけでは測れない部分もある。ご理解いただきたい。

(委員長)

重点をかけたところに十分なスタッフが配置されると、柔軟性も出てきて項目も変化するのではないかと承った。

(委員)

項目が 42 個もあり、管理が大変ではないか。極端な話、半分くらいに絞って重点的にやる方がもっと簡素にできるのではないか。

(教育総務課長)

分科会の方で 42 の事業を評価していく中で、例えば指導課の学力向上アクションプラン、清瀬教師塾、教育課程課題研究指定校、外国語教育の推進の 4 つの事業を『確かな学力の育成』という形で一つの重点にまとめていけるのではないかという事を精査している。

(委員)

円卓会議に関して、10 年近くかかって線路の南側はかなり活発に行われるようになった。しかし北側は遅れている。北側も力を入れて活性化させたい。

(教育部長)

重点事業検証シートには教育委員会が主管している事業以外のものもある。前回のマスタープランは他部署の事業も取り入れた事業展開という事で総合的に事業掲載をした。

ご指摘のあったとおり、次期のマスタープランではこれからの教育が地域とどう向かい合うかということも一つのテーマになる。他部署とも連携して行っていきたい。

(委員長)

この後理念について検討をするが、今の委員のような意見を言える、具体的にディスカッションする場はあるか。

(教育部長)

今回は理念、次回以降は理念に沿ってカテゴライズされたものの課題等、そして課題に対しての考えがあればどういった方策があるかまで含めて考えていただきたい。具体的な施策にそれを反映したいのでご協議願いたい。

(委員)

重点事業検証シート全体を読んで、英語の授業について、是非少人数に分けていただきたい。放課後に補習を行う制度があるが、大きな額のお金を支払って、ごくごく少人数の子ども達の為につき込んでいる。そうではなくて、これから社会人になってまで必要な英語を少人数にしていってほしい。

また、中高生の居場所づくりについて、児童館の中高生タイムや児童センターの学習室等あるが、数が少なく終わるのが早い。現在は塾の自習室を利用しているが、中高生の楽しい居場所ばかりではなく、勉強したいと思った時に勉強ができる場所も提供してほしい。

次に食育について。給食がどれだけ手間と愛情をかけて作られたものか、また、地産地消で地域の方から食材が届けられていることも、役員をやっているとわかるが、そういったことに触れていない保護者や子供たちにはどれだけ伝わっているのか。総合の学習や命の学習等で伝えていけないか。具体的に一般の保護者と子供にわかる方法があると良い。

(委員長)

地域の中で子供を育てるという観点から図書館で何ができるか、これからの国際化時代の中で子供を育てる時に何を目標としていくのか等、色々な視点を伺えた。次の施策を考えた時に反映することになると思うが、現状で何か話ができることがあるか？

(教育部参事)

英語の少人数について、指導課で各校の希望を取りまとめ、その判断を東京都が行い、教員の配置を行う。清瀬市教育委員会指導課としても英語の重要性は非常に大きいと分析し、様々な施策を打っていきたい。特に小学校英語が始まっていく中で、計画的に進んでいくよう考えていきたい。貴重なご意見でありがたい。

(図書館長)

図書館の自習室について、かつては受験前や夏休み等に勉強している姿が多く見られたが、最近はやや金額で長時間居られ、自由に話せるファミリーレストラン等でできるということから、若い方が学習する姿が減ってきた。最近では高齢者の利用が増えている。

(教育総務課長)

食育の取組みが子供たちや保護者、地域の方に伝わっていないということについて、教育委員会だよりが各戸配布ということで、たくさんの内容を掲載したいという思いがあったので、そういった面では十分にお知らせができていなかったかもしれない。今後はホームページ等も充実させていく中でたくさんの取組みについてお知らせできればと思っている。

(委員)

資料に青少年の健全育成スポーツとあるが、先日健全育成の発表会に参加したが、非常に立派な発表会だった。なぜこの発表会が載っていないのか。スポーツとわざわざ書かれているのは、それを区別したという意味なのか。日本は英語力やディベート力も遅れている。発表能力も遅れているので、年に一度の児童の発表会は大いに活用した方がいいのではないかと。

(教育部参事)

指導課で予算化し、健全育成委員会の方で事業を展開している。

(委員長)

それと今の話の所管は違うのか？

(生涯学習スポーツ課)

あくまで健全育成のスポーツ分野だけを載せている。なぜスポーツだけかということについては、生涯学習スポーツ課になる前は、社会教育課とか体育課だったが、社会教育課当時、青少年の健全育成とか、青少教の事業とか分野を考えていた。その流れから健全育成を残してスポーツだけが生涯学習となった。現在は市長部局の児童センターが健全育成を行っている。スポーツ関係も特に夏休みの少年野球や卓球、剣道等体育協会の団体に主管してもらっている。

(委員長)

生涯学習でスポーツを開催して、そこに近い学校が参加してきているという状況。安に学校教育を真ん中にしないですむという一般的には総合的に見えないという事か。

(委員)

検証シートの中に『スポーツの清瀬』という目標が書き出されているが、『読書の清瀬』というスローガンは市民の間で認知されていると思うが、『スポーツの清瀬』というスローガンはまだ認知されていないと思う。今後これを教育目標として打ち出していくという意味合いがあるのかどうか。

(教育部参事)

教育目標の中に『読書の清瀬』『スポーツの清瀬』を掲げている。具体的な取り組みも何点か掲げている。マスタープランとの整合性が取れていればいいのだが現在取れていないところもある。

(委員長)

今回の検討委員会のスケジュールで行くと、28年の5月には中間報告を作成し、教育委員会、市長に報告することになっている。中間報告を作成するにあたり、作業部会を依頼する。作業部会の委員は村田副委員長、内野委員、矢澤委員にお願いする。

第2次マスタープランの理念について、事務局から説明していただく。

(2) 次期マスタープランの理念について

(教育部長)

第2次マスタープランの理念について、教育委員会で次のようにまとめた。『子供が育つ 市民が育つ まちも育つ清瀬の教育』これは、教育委員と関係部署20票ほどで投票し、一番多く票を集めたのがこれだった。

(3) 柱立ての検討について

(委員長)

清瀬の教育を象徴するのがこれだった。この中に柱が存在する。この検討委員会はこの柱を構想していくということを任された。このキャッチフレーズの中にどんな構想を盛り込んでいけばいいのかということ議論するのが今日の課題。大体いくつくらいの柱ができるのかと考えると、課題が具体的に見えてくる。じゃ次は何をしたらいいのかというディスカッションの内容が方向性を構成していく要素になる。これをまとめたものが5月以降に報告される。

(教育総務課長)

マスタープラン作成までの説明

(委員長)

KJ法の説明

グループ討議結果

Aグループ

カテゴリー名称		委員の記入カード
1	楽しい学校づくり	1 学校が楽しい 2 不登校・いじめのない学校 3 差別のない・起こらない事
2	自ら学ぶ姿勢・向上心	1 個人の理解度 2 教わる→自分の方向性 3 教わるでなく覚える 4 学校教育の在り方 5 学力向上 6 英語の小人数
3	あたたかい家庭と居場所	1 交流会の活用 2 家族の和 3 規則正しい生活 4 優しい言葉づかい 5 ケータイを見ない目を作る 6 自覚を持つ 7 お金
4	つながりのある清瀬のまち	1 相談できる大人 2 困ったことが相談できる場所がある 3 人間力 人として有るべき姿 4 目標を持てる社会 5 どの世代でも楽しめる事 6 地域のつながりがある 7 自分の楽しめる場所(家以外) 8 社会との結びつき方 9 遊び場所の確保 10 自習場所の確保 11 安全安心 12 地域での役割を持つ 13 地域人材の活用 14 出来事に関心を持つ
5	清瀬に育ってよかった	1 我がまち清瀬を教える 2 郷土愛

		3 社会教育の在り方 4 自然が多いまち
--	--	-------------------------

Bグループ

カテゴリー名称		委員の記入カード
1	当たり前なこと、生きる基礎 (基本的生活習慣)	1 親の教育 2 当たり前のこと、当たり前出来るまでやりきる 3 お願い！ ありがとう！ 4 早く寝る 5 ちゃんと食べる 6 元気なあいさつ 7 手洗いうがい 8 「だいじょうぶ？」声かけ 9 まちの子供に声かけよう 10 たくましく生きる生活力 11 歩こう
2	地域とのかかわりで(手をつなぐ、 ふれあい)	1 図書館に親しむ 2 地域の集まり(自治会) 3 地域の人々がより積極的に学校へかかわる 4 自治会や高齢者との関わりの場を設定し子供と遊ばせる 5 地域で支える円卓・学校支援本部
3	地元を知ろう！	1 伝統・文化の継承 2 市の行事 3 まちの大人を見てみよう 4 清瀬の事をもっと知る 5 清瀬で学ぶ 清瀬の学校学びたい教育体制・メニュー
4	広がる世界観	1 共生社会 2 お互いを支え合うボランティア活動の充実→見守り 3 外国人との交流の場を設定する 4 国際人の育成 5 他県の子供たちとの交流 6 個性を生かす みんな同じではなく一人一人を見る 7 学校の教育 8 基礎基本の徹底(学習面) 9 開いた学校 学校に行こう 10 市内在住者の人材活用を進める
5	支えあう力	1 子育て中の母を大切に 2 自己肯定感の育成

		<ul style="list-style-type: none"> 3 自然を体験させる 4 子供から年配者まで一緒に取組む活動 5 子供達に自ら計画させ実行させる 6 清瀬市民大学 子供から大人まで地域が支え合う学びの場
	未分類	<ul style="list-style-type: none"> 1 施設設備の充実 学校～老人ホームの一体化 2 各種事業の整理・見直し 3 予算増 増やす努力をして教育にまわす 4 情報を一元化できる場所を設ける(情報センター)

Cグループ

カテゴリー名称		委員の記入カード
1	生涯学習を学びの循環へ	<ul style="list-style-type: none"> 1 学校では学べないことは地域の人々も参加して育つ学校 2 ふるさと意識が持てる清瀬市民 3 市民が育つ(市民大学を充実) 4 市民が育つ(市政参加) 5 まちも育つ(姉妹都市づくり・国際交流を図る) 6 俳句のまち清瀬 7 学んだことを伝え合う生涯学習
2	生涯にわたる食育	<ul style="list-style-type: none"> 1 誕生から死までの健康(食育)教育のある町 2 食生活の見直し 3 生活習慣の土台作り
3	教育と地域の日々の交流	<ul style="list-style-type: none"> 1 子供(就学児)のいない世帯に教育への関心を高める 2 地域の人達が助けあえる清瀬 3 保護者と学校、行政の連携 4 学校を中心として地域が集える清瀬 5 子供の相談先、場所を使いやすく 6 学校支援に青少協・円卓・地域の高齢者の活用により一体で学校サポート 7 子育てのしやすい環境を作る
4	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 1 受け身→自発的に行動できる子 2 基礎学力はどの子もしっかり学べる学校 3 自分に自信が持てる子 4 学力は学校教育で満たされる清瀬 5 1年生への重点教育 6 基礎学力の徹底 7 学力向上 8 子供が育つ英語劇

5	遊びながら体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> 1 基礎体力の向上 2 子供が育つ(スポーツに力を入れる) 3 芝生は子供の運動力向上に良いのか?
6	皆で守る安全と自然	<ul style="list-style-type: none"> 1 子供が育つ(他の子供達とよく遊ぶ機会・場所) 2 公園や遊び場など子供が安全に遊べる場の整備 3 安全・安心なまち 4 自然と触れ合う 5 地域で守る子供の安全

3 閉会